

各教科等における「令和8年度の重点」 《小学校》

質の高い学びを実現する授業改善に向けて

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として、「生きて働く『知識及び技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』の涵養」が示されています。これらの資質・能力を育成するため、徳島県教育委員会では、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら問題を見いだして解決策を考えたりするなど、学校教育における質の高い学びの実現を目指します。

さらに、多様で複雑な現代社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、必要な情報を取捨選択し、選択した情報を解釈したり活用したりする力などが求められます。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等において、その育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



小学校の各教科等の重点

国 語	目指す子供の姿
	<p>○日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使うことができる。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する活動において、目的や意図に応じて、必要な情報を選び、他者と伝え合うことを通して、自分の思いや考えをもったり、まとめたり、広げたりして、表現することができる。</p> <p>○課題解決に向けて活動に粘り強く取り組むなかで、言葉を通じて人と関わり、言葉がもつよさを認識しようとしたり、言葉をよりよく使おうとしたりしている。</p>
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①育成を目指す資質・能力を明確にし、実施状況を評価して改善を図りながら、子供一人一人に最適な学びを重ねていく場の設定</p> <p>◇振り返りやアンケート、学力調査等を活用し、子供一人一人のつまづきを捉えて指導する。</p> <p>◇国語科で育成した資質・能力を他教科等の学習に生かすことができるように、教科等横断的な学習の充実を図る。</p> <p>②「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連させ、言語活動を通して資質・能力を育成する単元の構想と展開</p> <p>◇語彙の量と質の充実を図るために、読書活動の推進や実生活に関連した言語活動を取り入れるなどして、語句を蓄積することや蓄積した語句を意図的に使わせることに、継続的に取り組む。</p> <p>◇目標と言語活動の設定の工夫、学習の手引きや多様なモデルの提示等により、言葉による見方・考え方を働かせながら、考えを形成したり、課題を解決したりする過程となるよう工夫する。</p> <p>◇ICTを効果的に活用するなどして、他者と協働し、主体的に学習を進める過程を設定する。</p> <p>◇子供の実態を的確に捉え、実態に即して、学習過程を弾力的にし、螺旋的・反復的に繰り返したり取り立てたりして指導する。</p> <p>◇「徳島版読解力」の5つの力を意識して、発問や指示の工夫をしたり、学習活動を設定したりする。</p> <p>③身に付けた資質・能力や学習内容をICT活用等により自覚化を図る指導の充実</p> <p>◇多様な学習の記録（ノート、成果物、映像等電子データ）が生まれるように工夫する。</p> <p>◇書くことによる振り返りをしたり、ICTの利用等により考えを共有したりすることで、学びを深めさせる。</p>

社 会	目指す子供の姿
	<p>○地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめている。</p> <p>○社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。</p> <p>○社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。</p>
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①児童が学習問題を把握し、その解決へ向けての見通しをもてる学習活動の充実</p> <p>◇単元を通じた学習過程を構成し、動機付けや方向付けを重視する。</p> <p>◇学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、振り返りを次時の見通しにつなげる。</p> <p>②児童が学習問題を追究する中で自分の考えを広げ、深める学習活動の充実</p> <p>◇社会科の特質に根ざした追究の視点を生かした問いを設定する。</p> <p>◇「社会的な見方・考え方」を働かせた多角的な考察場面や社会に見られる問題の解決に向けた選択・判断場面を位置付ける。</p> <p>③児童が情報を読み取り、取捨選択し、解釈・活用する学習活動の充実</p> <p>◇「徳島版読解力」を育成する場面を単元を通じた学習過程に位置付ける。</p> <p>◇「徳島ICT活用モデル」を参考に1人1台端末等を効果的に活用した授業を展開する。</p>

小学校の各教科等の重点

算 数	目指す子供の姿
	<ul style="list-style-type: none"> ○数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。 ○筋道立てて考え、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて事象や問題解決の過程を簡潔・明瞭・的確に表現したり、統合的・発展的に考察したりしている。 ○算数の楽しさやよさを実感し、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしている。
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①学習評価を充実させ、学びの質を高める</p> <p>◇本時だけでなく、単元を通してどのような資質・能力を育成するのかを把握する。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校算数』をもとに、評価規準の設定や単元計画の作成、評価問題の工夫・精選を行うことにより、児童の学びの質を高める。</p> <p>②伴走者となり、児童一人一人の学びのプロセスを重視する</p> <p>◇児童が新しい問題に出合うとき、教師は、結果や方法の見通しを引き出し整理する場を設定することにより、児童が自ら既習内容と関連付けて考えられるようにする。</p> <p>◇児童が思いや考えを話し合うとき、教師は説明ばかりするのではなく、「～さんは、なぜそのように考えたのかな」とあえて全体に問いかけることにより、問題解決の過程を共有し、児童一人一人が意味や根拠を説明できるようにする。また、児童のつまずきを事前に想定し、図による可視化等、解消できる方策をもつようにする。</p> <p>◇児童が学びを振り返るとき、教師は、振り返りの視点や学習記録、評価問題等を充実させることにより、児童が統合的・発展的に考察したり、学んだことを生活や学習に活用しようとしたりすることができるようにする。</p> <p>③学級全体で児童が学び合うことを価値付ける</p> <p>◇児童が「自分だけ分かればよいのではなく、学級の全員が分かること」を目指し、協働的に学ぶことができるように、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなど数学的な表現を目的に応じて柔軟に用いる場を確保する。ICTは「デジタルの力でリアルな学びを支える」という視点に立ち、資質・能力の育成のために積極的に活用する。</p>

理 科	目指す子供の姿
	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象についての性質や規則性などを理解するとともに、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を適切に記録することができる。 ○自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決することができる。 ○自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる。
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①自然の事物・現象について理解し、観察・実験の技能を身に付ける学習活動の充実</p> <p>◇自然の事物・現象の性質や規則性などを理解し、身に付けた知識を活用する場面を設定する。</p> <p>◇器具や機器などを目的に応じて工夫して扱い、観察、実験などの過程や得られた結果を適切に記録する場面を設定する。</p> <p>◇観察、実験などの指導に当たっては、予備実験等を行い、事故防止に留意する。</p> <p>②自然の事物・現象の中に問題を見だし、「問題解決の過程」をたどらせる学習活動の充実</p> <p>◇自然の事物・現象の中に問題を見いだす場面、実験結果からの気づきを基に新たな問題を見いだす場面、根拠のある予想や仮説を発想する場面、解決の方法を発想する場面、より妥当な考えをつくりだす場面を設定する。</p> <p>◇「徳島ICT活用モデル」を参考に、学習の一層の充実を図るための道具としてICT（1人1台端末）を位置付け、活用する場面を選択し、丁寧な指導を行う。</p> <p>③自然の事物・現象に進んで関わり、問題解決しようとする学習活動の充実</p> <p>◇自然の事物・現象に進んで関わり、生物を愛護する態度、生命を尊重する態度を養う学習活動を工夫する。</p> <p>◇粘り強く他者と関わりながら問題を解決しようとする場面を設定する。</p> <p>◇学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする場面を設定する。</p> <p>④理科学習を通じた「徳島版読解力」の育成</p> <p>◇理科の資質・能力の育成に向け、「徳島版読解力」を育成するための学習活動モデルを参考に「徳島版読解力」の育成を図る。</p>

小学校の各教科等の重点

生活	目指す子供の姿
	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。 ○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができる。 ○身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとしている。
音楽	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<ul style="list-style-type: none"> ①具体的な活動や体験の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇児童の生活圏にある人、社会、自然を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動を重視する。 ◇試行錯誤したり、納得のいくまで追究したりできる体験活動の充実を図る。 ②気付きの質を高める学習活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇体験の中で気付いたことを言葉、絵、動作、劇化など多様な方法で表現する場を設定する。 ◇体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視する。 ◇伝え合い交流する場を工夫する。 ◇気付いたことを基に考えることができるようにするため、「見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫する」などの多様な学習活動を行う。 ◇気付きの質を高める手段の一つとして、児童の発達段階に応じて、記録、振り返り、表現、交流などの場面でICTを利用することも考えられる。 ③学びの連続性の保障 <ul style="list-style-type: none"> ◇各教科等との合科的・関連的な指導の充実を図る。 ◇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに幼児期の実態を理解するとともに、幼児期における学びとの円滑な接続を図る。
音楽	目指す子供の姿
	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽活動を通して、曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたり理解できたりするとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、演奏したり音楽をつくったりできる。 ○音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏の楽しさやよさを見いだしながら、音楽を味わって聴いたりできる。 ○音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。
音楽	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<ul style="list-style-type: none"> ①音楽活動の中で、実感を伴いながら知識を習得したり更新したりする学習活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇児童が音楽から感じ取ったイメージや感情と、音楽を形づくっている要素の表れ方などとの関係を捉え、知識として習得したことを、表現や鑑賞の活動に生かすことができる学習活動を設定する。 ②技能と「思考力、判断力、表現力等」の育成とを関わらせた学習活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇音楽表現を考える過程で、思いや意図を実現するための技能を習得することの必要性を実感できる学習活動を設定する。 ◇児童が音楽表現を楽しんだり、表したい音楽表現をしたりするために必要な技能を習得できるように、互いの演奏や作品を聴き、表現のよさを判断する学習場面を設定する。 ③児童の思いや意図を音楽表現に生かしたり、音楽のよさや面白さを見だし、曲全体を聴き深めたりすることができるような学習活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇「児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を明確にし、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える学習場面を設定する。 ◇他者と関わりながら、音楽表現を工夫して音楽で表したり、音楽の楽しさやよさを見いだしながら味わって聴いたりする学習場面を設定する。 ④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇デジタル学習基盤を活用し、音や音楽の可視化、シミュレーションによる比較聴取などによって、児童が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにする。

小学校の各教科等の重点

図 画 工 作	目指す子供の姿
	<p>○対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができる。</p> <p>○造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができる。</p> <p>○つくりだす喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとすることができる。</p>
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解したり、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりする学習活動の充実</p> <p>◇自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な視点を理解する学習活動を設定する。</p> <p>◇材料や用具について基本的な扱い方を理解した上で、自分の思いを生かして、「つくり、つくりかえ、つくる」ことを楽しめる活動を設定する。</p> <p>②創造的に発想や構想をする学習活動の充実</p> <p>◇形や色などの造形的な視点を基に、イメージしたことを大切に学習活動を重視する。</p> <p>◇全ての学年で造形遊びの活動を年間指導計画上で適切に位置付け、活動の充実を図る。</p> <p>◇「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図る学習場面を設定する。</p> <p>③作品などに対する自分の見方や感じ方を深める学習活動の充実</p> <p>◇友達の表現や作品、親しみのある美術作品、生活の中の造形等を鑑賞する場面を設定し、自分の考えや表現の仕方との共通点、相違点を見付け、多様な表現のよさを味わう学習活動を行う。</p> <p>◇見方や感じ方について交流する学習を設定し、交流の中で心に残った友達の言葉や表現の仕方の工夫を書き留めるなどして、互いのよさや個性を尊重し合う活動の充実を図る。</p> <p>④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実</p> <p>◇表現活動では、表現したことを1人1台端末等に画像や動画で記録して、活動の軌跡を振り返ったり、容易に試行錯誤することができるソフトウェアを用いて表現を行ったりする。</p> <p>◇鑑賞活動では、美術館のWebサイトを閲覧して美術作品を鑑賞したり、撮影した画像や動画を1人1台端末等で共有しながら交流したりする。</p>

家 庭	目指す子供の姿
	<p>○家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けている。</p> <p>○日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>○家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫しようとする、実践的な態度を身に付けている。</p>
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①実践的・体験的な活動の充実</p> <p>◇実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して、習得した知識及び技能を、生活の場で生かせるよう、児童の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。</p> <p>②問題解決的な学習の充実</p> <p>◇児童が、生活を見つめ、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考える学習を通して、課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わうことができる学習過程を計画する。</p> <p>◇課題解決の見通しをもち、他者と協働しながら解決方法を考え、根拠や理由を明確にして分かりやすく説明したり発表したりする学習場面を設定する。</p> <p>③ICTの効果的な活用</p> <p>◇児童の思考の過程や結果を可視化する、大勢の考えを瞬時に共有化する、情報を収集・整理し編集することを繰り返し行い試行錯誤するなどの学習場面において、ICTを効果的に活用する。</p>

小学校の各教科等の重点

体 育	目指す子供の姿
	<p>○その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。</p> <p>○運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>○運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活をしようとしている。</p>
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①指導と評価の一体化</p> <p>◇単元を通して指導内容の明確化、重点化を図り、児童の実態に応じた指導・支援を行う。</p> <p>◇評価した結果を授業改善や更なる児童への指導・支援に生かす。</p> <p>◇指導と評価の計画を作成し、育成を目指す資質・能力をバランスよく育むことができるようにする。</p> <p>②運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができる学習活動の充実</p> <p>◇児童が運動の特性に触れることができる授業づくりを行う。</p> <p>◇運動が苦手な児童や運動に意欲的ではない児童への指導等の在り方について配慮する。</p> <p>◇健康に関する課題を解決する学習活動を積極的に行うなど指導方法の工夫を行う。</p> <p>◇ICTを効果的に活用する。</p> <p>③「徳島版読解力」を構成する「5つの力」の育成</p> <p>◇「5つの力」の育成につながるような学習場面を設定する。</p>

外 国 語	目指す子供の姿
	<p>○外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。</p> <p>○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うとともに、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。</p> <p>○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実</p> <p>◇すべての領域において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、必然性のある言語活動を積み重ねていく。</p> <p>◇「聞くこと」「話すこと」を「読むこと」「書くこと」の言語活動へとつなげることで、4技能を統合的に活用する力を養う。</p> <p>◇「徳島ICT活用モデル」を基にICTを効果的に活用することで、子供たちが自ら情報を整理・発信する「学び方」を身に付けられるようにし、言語活動のさらなる充実を図る。</p> <p>◇「徳島版小中高連携チェックリスト」を活用し、校種間のつながりや連携を意識して授業を行う。</p> <p>②学習改善・指導改善につながる評価の工夫</p> <p>◇『徳島版読解力』を育成する学習のイメージを基に、単元全体を見通した計画的な指導と評価を行い、児童の姿を多面的に捉えることで、学習の質を高める。そして、児童一人一人が自らの学びを振り返り、自己調整していくための支援につなげる。</p> <p>◇児童と教師、児童同士が学習過程を共有し、そこでの気付きを児童の学習改善及び教師の指導改善につなげていく。</p>

小学校の各教科等の重点

特別の教科 道徳	<p style="text-align: center;">目指す子供の姿</p> <p>○児童が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている。 ○道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている。</p>
	<p style="text-align: center;">目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容</p> <p>①道徳科の特質を生かした学習活動の充実</p> <p>◇答えが一つではない、道徳的課題について、児童自らが学びたいという課題意識や課題追及への意欲を高め、学習の見通しがもてるように課題設定を工夫する。 ◇教材や児童の生活体験などを生かしながら、一定の道徳的価値に関わる物事を多面的・多角的に捉えることができるように指導を工夫する。 ◇ねらいとする道徳的価値について、児童自身がどのように捉え、どのような葛藤があるのか、また道徳的価値を実現するとどのような意味を見いだすことができるのかなど、児童が自覚できるような指導を工夫する。</p> <p>②評価を指導の改善に生かす工夫</p> <p>◇道徳科の学習活動及び「徳島版読解力」を鑑み、指導の根拠を明確にし、主体的かつ効果的な学び方を児童自ら考えることができるような工夫や、児童自らが道徳的価値を実現するための課題や目標、及び道徳性を養うことよさや意義について考えることができるような工夫を検討する。 ◇年齢相応の発達段階があるとともに個人差も大きいことに留意し、「徳島ICT活用モデル」等を参考にしながら、児童一人一人の考え方や感じ方を大切に授業の展開を検討する。</p>

外国語活動	<p style="text-align: center;">目指す子供の姿</p> <p>○外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 ○身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 ○外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
	<p style="text-align: center;">目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容</p> <p>①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実</p> <p>◇すべての領域において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、必然性のある言語活動を積み重ねていく。 ◇児童にとって身近な事柄について、聞いたり話したりすることを繰り返し、英語の音声やリズムに十分慣れ親しませる。 ◇「徳島ICT活用モデル」を基にICTを効果的に活用することで、子供たちが自ら情報を整理・発信する「学び方」を身に付けられるようにし、言語活動のさらなる充実を図る。 ◇「徳島版小中高連携チェックリスト」を活用し、校種間のつながりや連携を意識して授業を行う。</p> <p>②学習改善・指導改善につながる評価の工夫</p> <p>◇『「徳島版読解力」を育成する学習のイメージ』を基に、単元全体を見通した計画的な指導と評価を行い、児童の姿を多面的に捉えることで、学習の質を高める。そして、児童一人一人が自らの学びを振り返り、自己調整していくための支援につなげる。</p>

小学校の各教科等の重点

総合的な学習の時間	目指す子供の姿
	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、様々な場面において探究的な学習を進めることができる。 ○実社会や実生活の中から課題を設定し、課題解決のために情報を集め、整理・分析し、まとめたり表現したりすることができる。 ○探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自他のよさを尊重しながら、積極的に社会に参画しようとするすることができる。
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①学習過程を探究的にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「課題の設定」では、実社会や実生活に関わる体験をすることで、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することができるよう、教師が意図的な働きかけを行う。 ◇「情報の収集」では、課題解決のための情報収集を自覚的に行うとともに、体験で獲得した情報をレポートなど適切な方法で蓄積することにも配慮する。 ◇「整理・分析」では、目的に応じて、比較して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けて考える、原因や結果に着目して考える、などの「考えるための技法」を用いて思考を可視化できるようにする。 ◇「まとめ・表現」では、相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすることで、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚し、探究の過程が繰り返されるようにする。 <p>②他者と協働して主体的に取り組む学習活動にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇体験活動を探究活動の過程に意図的に位置付けるとともに、ICTや思考ツールなどを効果的に活用しながら、互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換や交流活動など、他者と協働して課題を解決し自分の考えを深めようとする学習活動を重視する。 <p>③徳島ならではの単元・授業デザインにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇総合的な学習の時間で目指す子供の姿の育成に向けて、「徳島版読解力」を構成する5つの力や「徳島ICT活用モデル」に示される段階及び指数との関連を図り、単元や授業のデザインを行う。

特別活動	目指す子供の姿
	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 ○自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 ○よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。 ○所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。 ○生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 ○主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容
	<p>①「合意形成を図る」「意思決定を行う」活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇議題や題材を選定・設定し、根拠を明確にして自分の考えを話したり、意図を捉えながら聞いたりして、「折り合いを付けながら集団として合意形成を図る」「集団思考を生かした一人一人の意思決定を行う」話し合い活動ができるように指導・支援を工夫する。 <p>②「多様な考え」「自分の考え」をよりよい方向へつなげていく活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇実践や体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、対話したりする活動を重視するとともに、次の活動に生かすことができるように支援する。 ◇「生成AI時代の主権者」として、確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する領域として、ICTを活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用する。 <p>③合意形成したり、意思決定したりしたことを実践する活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇合意形成したことを基に、全員で役割を分担して協力したり、意思決定したことを基に、個人として努力したりして、目標の実現や達成を目指すよう支援する。 ◇児童が実践や体験を通し、集団の一員としての望ましい生き方についての認識をもつことができるよう、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などとの関連を図った指導をする。